

# 令和4年度高等学校入学者選抜審議会 第1回専門委員会

日時 令和4年9月27日(火)

午前10時～正午

場所 行政庁舎9階 第一会議室

## 次 第

### 1 開 会

### 2 報告・審議

(1) 【報告】入試制度導入まで及び導入後の経過について

(2) 【審議】過去4年間の宮城県公立高等学校入学者選抜結果概要について

(3) 【報告】宮城県公立高等学校入学者選抜に係る質問紙調査実施要項について

(4) 【審議】宮城県公立高等学校入学者選抜に係る質問紙調査集計結果について

### 3 その他

### 4 閉 会

### 【 資料 】

○資料 入試制度検証関係資料

○別冊 求める生徒像・選抜方法

# 高等学校入学者選抜審議会条例

(昭和28年3月28日条例第40号)

最終改正 平成24年12月条例第71号

**第1条** 教育委員会の諮問に応じ、高等学校の通学区域の検討、入学者の選抜の方法及びその実施並びに学力検査問題の作成について調査審議するため、高等学校入学者選抜審議会（以下「審議会」という。）を置く。

**第2条** 審議会は、30人以内の委員で組織する。

2 審議会に、専門の事項を調査研究させるため、専門委員を置く。

**第3条** 委員及び専門委員は、学校の教職員、総合教育センターの職員、教育庁の職員及び学識経験者のうちから教育委員会が任命又は委嘱する。

**第4条** 委員の任期は二年とする。ただし、補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 教育委員会が必要と認めたときは、前項の規定にかかわらず、任期中においても当該委員を解職することができる。

3 専門委員は、当該専門の事項に関する調査研究が終了したときは、退任するものとする。

**第5条** 審議会に、委員長及び副委員長各一人を置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長に事故あるとき、その職務を代行する。

**第6条** 審議会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

**第7条** この条例に定めるものを除く外、審議会の議事の手続その他審議会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議にはかつて定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭和47年10月11日条例第27号抄）

（施行期日）

1 この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成24年12月20日条例第71号抄）

（施行期日）

1 この条例は、平成25年4月1日から施行する。

## 第 1 回高等学校入学者選抜審議会専門委員会 名簿

(専門委員)

No.	氏 名	現 職	備 考
1	熊谷 龍一	東北大学大学院教育学研究科 准教授	入選審委員
2	浅野 直美	宮城県 P T A 連合会 副会長	入選審委員
3	高橋 千春	栗原市立築館中学校 校長	入選審委員
4	佐藤 和夫	蔵王町立遠刈田中学校 教頭	
5	河本 和文	東北学院榴ヶ岡高等学校 校長	
6	茂木 悟	宮城県名取高等学校 校長	
7	佐々木久晴	宮城県宮城広瀬高等学校 教頭	
8	菅井 理恵	総合教育センター 所長	入選審委員

(教育庁)

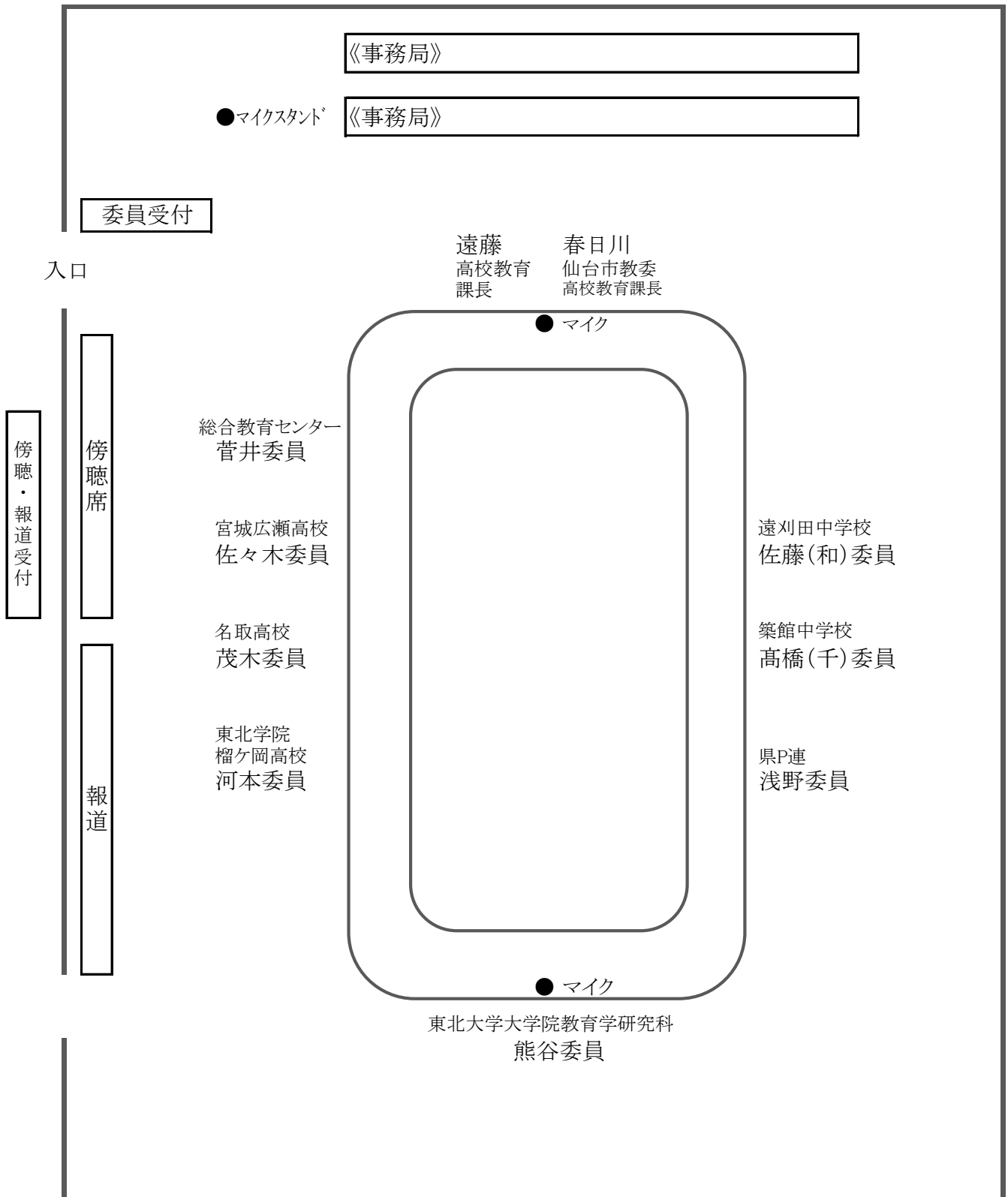
高校教育課	課長	遠藤 秀樹
	総括課長補佐	後藤 康弘
	副参事兼総括課長補佐	佐藤 和寛
	教育指導第一班課長補佐	櫻井 知大
	〃 主幹	上園 知明
	〃 主幹	菊地 芳浩
	〃 主幹	鎌田 幹子
	〃 主幹	菊地 賢一
	〃 主任主査	岡田 康佑
	教育指導第二班課長補佐	早川 健次
	〃 主幹	赤間 裕樹
	〃 主幹	清原 和
	〃 主査	幸田 雄介

(仙台市教育局)

学校教育部	高校教育課	課長	春日川 孝
	〃	指導主事	末永 光洋

# 令和4年度 高等学校入学者選抜審議会 第1回専門委員会 座席図

県行政庁舎9階 第一会議室



## 入試制度検証 関係資料

新しい入試制度の検証作業スケジュールについて . . . p 1

## 報告及び審議

- (1) 【報告】入試制度導入まで及び導入後の経過について . . . p 2
- (2) 【審議】過去4年間の宮城県公立高等学校入学者選抜結果概要について  
. . . p 4
- (3) 【報告】宮城県公立高等学校入学者選抜に係る質問紙調査実施要項について  
. . . p 8
- (4) 【審議】宮城県公立高等学校入学者選抜に係る質問紙調査集計結果について
- 中学校 . . . p 11
  - 高等学校 . . . p 15
  - 生徒 . . . p 18
  - 保護者 . . . p 21
  - 横断的分析 . . . p 24
  - 自由記述（中学校・高等学校） . . . p 33

## 新しい入試制度の検証作業スケジュール

### 令和3年度

- 9月27日 第1回専門委員会  
(入試制度の検証の方向性)
- 11月1日 第2回専門委員会  
(質問紙調査の実施の方向性)
- 2月16日 第3回専門委員会  
(質問紙調査の内容検討)

### 令和4年度

- 5月～6月 質問紙調査実施
- 7月27日 第1回高等学校入学者選抜審議会  
(専門委員会設置決定 質問紙調査速報版報告)

### 【これまで】

---

- 9月27日 第1回専門委員会  
(入試制度の検証確認 新しい入試制度下で実施した結果検討  
質問紙調査の説明と回答結果分析  
中学校及び高等学校の入試全般に関する自由記述の検討)
- 10月20日 第2回専門委員会  
(各質問の自由記述を参考にして分析を深化させ中間報告のまとめ)
- 11月24日 第2回高等学校入学者選抜審議会  
(2回の専門委員会の検証内容の中間報告)

### 令和5年度

- 5月～6月 第3回専門委員会  
(中間報告をさらに検討し検証結果報告書のまとめ)
- 7月 第1回高等学校入学者選抜審議会  
(新しい入試制度に関する検証結果報告)  
※必要な改善点があれば、諮問に含め第2回審議会で答申を受ける

## 新入試制度導入まで及び導入後の経過

### 【1 背景（課題）】

#### ○複数の受験機会に確保に伴う入試期間の長期化

- ・ 前期選抜不合格による挫折体験からの精神的回復期間の確保
- ・ 出願条件のため、「入りたい高校」ではなく「受験できる高校」を受験生が選択
- ・ 授業に対する前期選抜合格者の意欲の低下及び後期選抜受験者との間の温度差
- ・ 入試期間の長期化により、教育活動及び在校生への学習指導に支障

#### ○特色ある選抜の在り方について

- ・ 前期選抜の出願条件により、平等な受験機会の確保に支障
- ・ 定員の少ない前期選抜は出願倍率が高くなり、不合格者数が増加
- ・ 前期受験者は、国語、数学、英語の3教科に力をいれ、社会及び理科を軽視する傾向

#### ○入試事務の在り方について

- ・ 前期選抜志願者の増加により、学校独自検査に係る指導や入試事務作業量の増加及び教員の多忙化
- ・ 入試事務と定期考査、学年末の事務整理等の期間重複による事務作業の煩雑化

### 【2 審議等の経過】

平成28年 7月 高等学校入学者選抜審議会：「今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について」



(諮問)

審議会 (3回開催)

小委員会 (5回開催)

公立高校入試制度に関する質問紙調査(平成27年12月～平成28年1月)

パブリックコメント (平成28年12月～平成29年1月)

意見聴取会 (平成29年1月)

平成29年 3月 高等学校入学者選抜審議会：答申



審議会 (2回開催)

小委員会 (3回開催)

新入試制度検討会議 (4回開催)

平成29年12月 県教育委員会：「新しい県立高等学校入学者選抜制度」の決定

### 【3 改善のポイント】

#### ○改善の基本的な考え方

- ・受験生にとって公正かつ適正なものである。
- ・受験生が自らの将来を展望する契機となる。
- ・中学校と高等学校の教育を円滑に繋ぐものである。
- ・これからの時代に求められる知識・技能の定着や課題を解決するための思考力、判断力、表現力の育成に繋がるものである。

#### ○改善の主な観点

- ・前期選抜と後期選抜の入試日程を一本化し、入試期間の長期化を解消する。
- ・各高等学校の特色をより明確に示した上で、その特色に基づいて、学力と同時に生徒の資質・能力についても多面的に評価する。
- ・各高等学校が求める生徒像を提示することで、中学生の目的意識の明確化及び主体的な進路選択を促進する。

### 【4 新入試制度の周知・広報活動等について】

- ・平成29年12月 高校向け新入試制度説明会の開催
- ・平成30年4月 中学校対象新入試制度説明会の開催（県内4地区で実施）
- ・平成30年5～6月 県教委主催の新入試制度保護者説明会の開催（県内7地区で実施）
- ・平成30年5月 県内の中学生を対象とした新入試制度周知用リーフレットの作成と配布
- ・平成30年10月 求める生徒像・選抜方法一覧（暫定版）の作成と配布
- ・平成30年11～12月 地区別新入試制度説明会の開催（県内7地区で実施）
- ・令和元年5～7月 市町村教委主催の新入試制度保護者説明会において説明（37回実施）
- ・令和元年9月 求める生徒像・選抜方法一覧（令和2年度入試用）の作成と配布
- ・令和元年9～10月 地区別公立高校合同説明会において説明（県内7地区で実施）
- 令和2年3月 新入試制度による高等学校入学者選抜の実施**
- ・令和2年7月 求める生徒像・選抜方法一覧（令和3年度入試用）の作成と配布
- ・令和2年5～7月 市町村教委主催の入試制度保護者説明会において説明（38回実施）
- ・令和2年9～10月 地区別公立高校合同説明会において説明（県内7地区で実施）
- ・令和3年3月 新入試制度による2回目の高等学校入学者選抜の実施
- ・令和4年3月 新入試制度による3回目の高等学校入学者選抜の実施



## 過去4年間の宮城県公立高等学校入学者選抜結果概要

## 1 総括

(単位:人)

		全 日 制 課 程			
		令和4年度	令和3年度	令和2年度	平成31年度
中学校卒業予定者数	※1	19,765	19,235	19,930	20,776
募集定員	(a)	13,880	14,200	14,280	14,520
併設型中学校から併設型高等学校への入学	(b)	(202)	(198)	(202)	193
第一次募集	募集定員	13,880	14,200	14,280	
	出願者数	※2	14,005	13,687	14,650
	出願倍率	(倍)	1.01	0.96	1.03
	欠席者数		177	185	180
	受験者数		13,828	13,502	14,470
	受験倍率	(倍)	1.00	0.95	1.01
	合格者数	(c)	12,016	12,187	12,668
前期選抜	募集人数				4,770
	出願者数				7,904
	出願倍率	(倍)			1.66
	欠席者数				20
	受験者数				7,882
	受験倍率	(倍)			1.65
	合格者数	(d)			4,463
連携型選抜	募集人数	(72)	(72)	(72)	92
	出願者数	(45)	(42)	(51)	64
	合格者数	(e)	(41)	(51)	61
後期選抜	募集人数				9,807
	出願者数	※2			10,915
	出願倍率	(倍)			1.11
	欠席者数				165
	受験者数				10,750
	受験倍率	(倍)			1.10
	合格者数	(f)			8,649
第二次募集	募集人数	1,880	2,018	1,613	1,162
	出願者数	134	61	150	170
	受験者数	133	61	150	169
	合格者数	(g)	122	56	131
全合格者数	※3 (h=b+c+d+e+f+g)	12,138	12,243	12,799	13,517
充足率 (%)	(h/a *100)	87.4%	86.2%	89.6%	93.1%

※1 中学校卒業予定者数は、入学者選抜実施年度の5月1日現在の数字である。

※2 出願者数には、特例措置による出願（出願期間後の急な転居等による出願）を含む。

※3 令和2年度以降の全合格者数について、(b)及び(e)は第一次募集(c)の内数である。

(単位:人)

		定 時 制 課 程			
		令和4年度	令和3年度	令和2年度	平成31年度
募 集 定 員 (a)		960	1,000	1,000	1,000
第 一 次 募 集	募集定員	960	1,000	1,000	
	出願者数 ※2	325	361	366	
	出願倍率 (倍)	0.34	0.36	0.37	
	欠席者数	8	7	13	
	受験者数	317	354	353	
	受験倍率 (倍)	0.33	0.35	0.35	
合格者数 (c)		298	340	334	
前 期 選 抜	募集人数				300
	出願者数				254
	出願倍率 (倍)				0.85
	欠席者数				4
	受験者数				250
	受験倍率 (倍)				0.83
合格者数 (d)					159
後 期 選 抜	募集人数				841
	出願者数 ※2				299
	出願倍率 (倍)				0.36
	欠席者数				13
	受験者数				286
	受験倍率 (倍)				0.34
合格者数 (f)					256
第 二 次 募 集	募集人数	663	660	666	585
	出願者数	34	33	59	78
	受験者数	32	32	59	77
	合格者数 (g)	28	25	49	63
全 合 格 者 数 ※3 (h=c+d+f+g)		326	365	383	478
充 足 率 (%) (h/a *100)		34.0%	36.5%	38.3%	47.8%

※1 中学校卒業予定者数は、入学者選抜実施年度の5月1日現在の数字である。

※2 出願者数には、特例措置による出願（出願期間後の急な転居等による出願）を含む。

(単位:人)

		通 信 制 課 程 ( 一 期 )			
		令和4年度	令和3年度	令和2年度	平成31年度
入 学 者 選 抜	募集定員	450	450	450	450
	募集人数	450	450	450	450
	出願者数	173	146	155	153
	受験者数	171	145	155	153
	合格者数	171	145	155	153

※一期の結果について、出願者数、受験者数、合格者数には、0単位編入生の数を含む。

## 2 学科別合格者数

(1) 全日制課程

(単位:人)

	学 科	令和4年度		令和3年度		令和2年度		平成31年度	
		募集定員	全合格者数	募集定員	全合格者数	募集定員	全合格者数	募集定員	全合格者数
1	普通	8,800	8,163	9,040	8,261	9,040	8,472	9,200	8,764
2	農業	720	553	720	508	720	582	720	646
3	工業	1,480	1,331	1,480	1,265	1,480	1,312	1,520	1,447
4	商業	1,120	805	1,120	777	1,160	876	1,200	1,032
5	水産	240	118	240	156	240	174	240	207
6	体育	120	111	120	114	120	107	120	119
7	英語	80	80	80	79	80	80	80	77
8	家庭	120	84	120	90	120	99	120	107
9	看護	40	40	40	40	40	40	40	40
10	理数	120	120	200	200	200	200	200	200
11	美術	40	40	40	34	40	40	40	40
12	総合	840	549	920	657	960	761	960	775
13	福祉	40	24	40	22	40	16	40	23
14	災害科学	40	40	40	40	40	40	40	40
15	探究	80	80						
	計	13,880	12,138	14,200	12,243	14,280	12,799	14,500	13,517

(2) 定時制課程

(単位:人)

	学 科	令和4年度		令和3年度		令和2年度		平成31年度	
		募集定員	全合格者数	募集定員	全合格者数	募集定員	全合格者数	募集定員	全合格者数
1	普通	720	296	760	332	760	350	760	441
2	工業	240	30	240	33	240	33	240	37
	計	960	326	1,000	365	1,000	383	1,000	478

## 3 地区別合格者数(全日制課程)

(単位:人)

	地 区	令和4年度		令和3年度		令和2年度		平成31年度	
		募集定員	全合格者数	募集定員	全合格者数	募集定員	全合格者数	募集定員	全合格者数
1	刈田・柴田	1,240	953	1,240	934	1,280	986	1,280	1,124
2	伊 具	280	167	280	196	280	213	280	224
	南部地区	1,520	1,120	1,520	1,130	1,560	1,199	1,560	1,348
3	亘理・名取	960	893	1,000	894	1,000	937	1,000	975
4	仙台南	2,320	2,278	2,320	2,276	2,320	2,279	2,400	2,393
	中部南地区	3,280	3,171	3,320	3,170	3,320	3,216	3,400	3,368
5	仙台北	2,720	2,693	2,800	2,793	2,800	2,765	2,880	2,879
6	塩 釜	1,080	1,035	1,120	1,072	1,120	1,104	1,120	1,119
7	黒 川	480	415	480	438	480	463	520	505
	中部北地区	4,280	4,143	4,400	4,303	4,400	4,332	4,520	4,503
8	大 崎	1,240	968	1,280	947	1,280	1,061	1,280	1,125
9	遠 田	440	271	440	288	440	318	440	348
10	登 米	560	470	600	438	600	493	600	504
11	栗 原	520	380	560	371	560	404	560	420
	北部地区	2,760	2,089	2,880	2,044	2,880	2,276	2,880	2,397
12	石 巻	1,440	1,224	1,480	1,176	1,520	1,292	1,560	1,385
13	本 吉	600	391	600	420	600	484	600	516
	東部地区	2,040	1,615	2,080	1,596	2,120	1,776	2,160	1,901
	総 計	13,880	12,138	14,200	12,243	14,280	12,799	14,520	13,517

#### 4 学科別出願倍率

H31は後期選抜

(単位:倍)

学 科		出願倍率			
		R4	R3	R2	H31
1	普通	1.09	1.04	1.10	1.18
2	農業	0.84	0.79	0.84	1.13
3	工業	0.97	0.93	0.97	1.08
4	商業	0.79	0.73	0.85	0.95
5	水産	0.49	0.65	0.73	0.77
6	体育	0.93	0.96	0.88	1.28
7	英語	1.09	0.90	1.11	0.89
8	家庭	0.82	0.82	0.86	0.95
9	看護	1.45	1.15	1.18	1.50
10	理数	1.57	1.23	1.50	1.40
11	美術	1.18	0.93	1.30	1.45
12	総合	0.66	0.71	0.82	0.79
13	福祉	0.65	0.58	0.48	0.40
14	災害科学	0.98	1.38	1.03	1.04
15	探究	1.79	—	—	—
全日制課程		1.01	0.96	1.03	1.11
定時制課程		0.34	0.36	0.37	0.36

#### 5 地区別出願倍率(全日制課程)

H31は後期選抜

(単位:倍)

地 区	出願倍率			
	R4	R3	R2	H31
南部地区	0.76	0.76	0.80	0.84
中部南地区	1.20	1.15	1.17	1.30
中部北地区	1.20	1.14	1.21	1.39
北部地区	0.78	0.73	0.82	0.78
東部地区	0.80	0.78	0.85	0.84
総 計	1.01	0.96	1.03	1.11

#### 6 出願状況から見た全県一学区化に伴う地区外受験状況について

※数値は総受験者に対する各地区外受験者数の割合(%), H31は後期選抜

全体推移		県内一学区(H22～)			
		第一次募集制			前期・後期制
		R4	R3	R2	H31
地区外受験者の割合		16.6%	17.0%	16.6%	18.0%
内訳	1 中部南北地区間	10.1%	10.3%	10.2%	10.9%
	2 中部地区と他地区間	5.8%	5.9%	5.5%	6.3%
	3 中部地区以外の地区間	0.7%	0.8%	0.9%	0.8%

### (3) 報告

## 宮城県公立高等学校入学者選抜に係る質問紙調査実施要項

宮城県教育委員会

仙台市教育委員会

石巻市教育委員会

- 1 実施調査名 「宮城県公立高等学校入学者選抜に係る質問紙調査」
- 2 調査の目的 「令和2年度入学者選抜」からスタートした新しい入試制度について、これまで3カ年の実施状況を踏まえた評価を行うことで、旧制度からの変更点の効果を検証するとともに、その課題と改善の方向性についての意見を集約し、入学者選抜に係る今後の検討の参考とする。
- 3 調査対象 ○県内の国立・公立・私立の中学校，中等教育学校，特別支援学校【悉皆】  
○県内の公立高等学校（ただし，美田園高等学校を除く）【悉皆】  
○高等学校入学者選抜審議会の専門委員会で抽出した公立高等学校20校に令和4年度1～3年生に在籍する生徒及びその保護者【任意】
- 4 調査期間 令和4年5月下旬から令和4年6月17日（金）までの期間で各学校の実状に応じて実施する。
- 5 回答提出期限 令和4年6月17日（金）
- 6 調査内容 【別添】質問紙を参照
- 7 調査結果の集計・報告 令和4年度高等学校入学者選抜審議会で報告する。  
その後，専門委員会等において詳細を検証する。
- 8 その他 質問紙調査実施後のスケジュール  
令和4年7月27日 第1回高等学校入学者選抜審議会報告（速報版）  
令和4年8月以降 専門委員会で検証作業

【補足1】調査対象校数

公立の高等学校	82校	(回答数	82校)
※全日制69校(川崎校含む)・定時制13校		*回答率	100%
国公立の中学校	204校	(回答数	200校)
※国立1校・公立194校・私立8校・中等教育学校1校		*回答率	98.0%
国公立の特別支援学校中等部(高等学園3校除く)	18校	(回答数	15校)
※国立1校・公立17校		*回答率	83.3%
抽出した県立高等学校の在籍生徒	8,221名	(回答数	3,011名)
		*回答率	36.6%
抽出した県立高等学校の在籍生徒の保護者	8,221名	(回答数	2,095名)
		*回答率	25.5%

【補足2】生徒・保護者調査依頼校【抽出】

(※生徒数は各校の令和4年4月1日現在の在籍者数)

地区	普通科	普通科+専門	専門・総合	定時制	生徒数計
南部	角田 (396)	柴田 (406)	村田 (162)	白石七ヶ宿 (37)	1,001
中部 (山市内)	仙台二 (955)	泉 (789)	工業 (811)	第二工業 (29)	2,584
中部 (山市外)	名取北 (770)	黒川 (491)	農業 (710)	貞山 (203)	2,174
北部	築館 (456)	松山 (136)	登米総合産業 (426)	田尻さくら (186)	1,204
東部	石巻 (605)	志津川 (149)	気仙沼向洋 (298)	東松島 (206)	1,258
生徒数計	3,182	1,971	2,407	661	8,221

抽出の基準：(普通科)各地区の拠点校を中心に抽出

(普通+専門)各地区の普通科で抽出した学校とは異なる地域の高校

(専門・総合)学科の重複がないように抽出

※地区内でも各地域から高校を抽出する。

#### 4つのカテゴリーに対する質問紙調査の内容

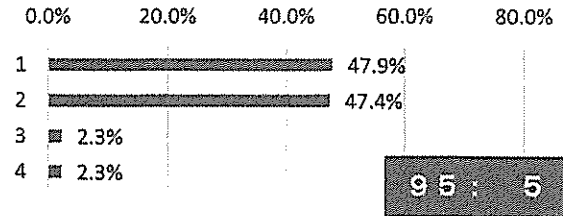
- |                                   |             |
|-----------------------------------|-------------|
| (1) 中学校等に対する質問紙                   | 【20項目＋自由記述】 |
| ① 学習意欲について                        | 1項目         |
| ② 求める生徒像・選抜方法について                 | 8項目         |
| ③ 入試日程を一本化したことについて                | 7項目         |
| ④ 出願希望調査について                      | 1項目         |
| ⑤ 入試日程について                        | 3項目         |
| ⑥ 入試制度全般に関する自由記述                  |             |
| (2) 高等学校に対する質問紙                   | 【16項目＋自由記述】 |
| ① 求める生徒像・選抜方法について                 | 6項目         |
| ② 入試日程を一本化したことについて                | 6項目         |
| ③ 出願希望調査について                      | 1項目         |
| ④ 入試日程について                        | 3項目         |
| ⑤ 入試制度全般に関する自由記述                  |             |
| (3) 新入試制度下で受験を経験した高校生1年生から3年生（抽出） | 【12項目＋自由記述】 |
| ① 高校入試の捉えについて                     | 3項目         |
| ② 求める生徒像・選抜方法について                 | 5項目         |
| ③ 追試験の導入について                      | 1項目         |
| ④ 出願希望調査について                      | 1項目         |
| ⑤ 入試日程について                        | 1項目         |
| ⑥ 2つの選抜方法について                     | 1項目         |
| ⑦ 入試制度全般に関する自由記述                  |             |
| (4) (3)の保護者                       | 【12項目＋自由記述】 |
| ① 高校入試の捉えについて                     | 3項目         |
| ② 求める生徒像・選抜方法について                 | 5項目         |
| ③ 追試験の導入について                      | 1項目         |
| ④ 出願希望調査について                      | 1項目         |
| ⑤ 入試日程について                        | 1項目         |
| ⑥ 2つの選抜方法について                     | 1項目         |
| ⑦ 入試制度全般に関する自由記述                  |             |

## (4) 審議

### 宮城県公立高校入学者選抜に係る質問紙調査 集計結果 【質問対象：中学校】

(1) 中 (1) 【Q1】高校入試という目標が、生徒が日頃の学習意欲を高めることに役立っている。

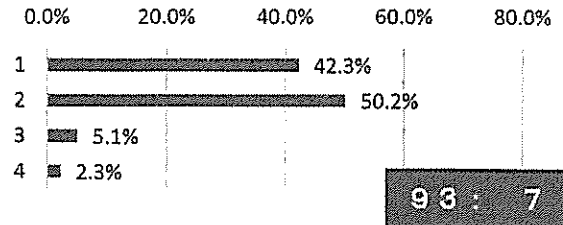
1：そう思う	103	47.9%
2：どちらかといえばそう思う	102	47.4%
3：どちらかといえばそう思わない	5	2.3%
4：そう思わない	5	2.3%
回答数合計	215	



(2) 中 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、次の①～⑧の質問にお答えください。

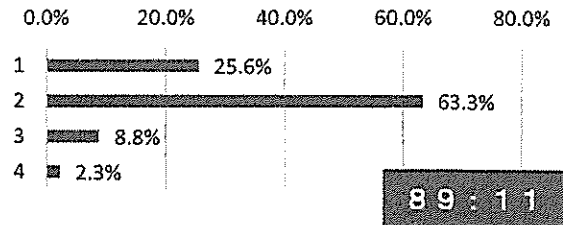
① 【Q2】生徒が、志望校選択や受験する上で、必要な内容が記載されている。

1：そう思う	91	42.3%
2：どちらかといえばそう思う	108	50.2%
3：どちらかといえばそう思わない	11	5.1%
4：そう思わない	5	2.3%
回答数合計	215	



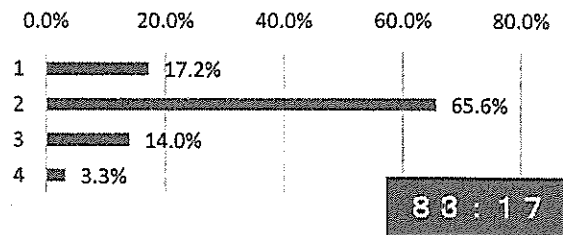
② 【Q3】受験生の進路に対する意識を高めることにつながっている。

1：そう思う	55	25.6%
2：どちらかといえばそう思う	136	63.3%
3：どちらかといえばそう思わない	19	8.8%
4：そう思わない	5	2.3%
回答数合計	215	



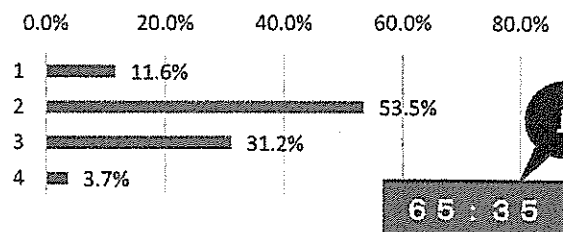
③ 【Q4】受験生の意思や判断に基づいた主体的な進路選択につながっている。

1：そう思う	37	17.2%
2：どちらかといえばそう思う	141	65.6%
3：どちらかといえばそう思わない	30	14.0%
4：そう思わない	7	3.3%
回答数合計	215	



④ 【Q5】日頃の中学校生活において、生徒が学習習慣を身に付けることに役立っている。

1：そう思う	25	11.6%
2：どちらかといえばそう思う	115	53.5%
3：どちらかといえばそう思わない	67	31.2%
4：そう思わない	8	3.7%
回答数合計	215	

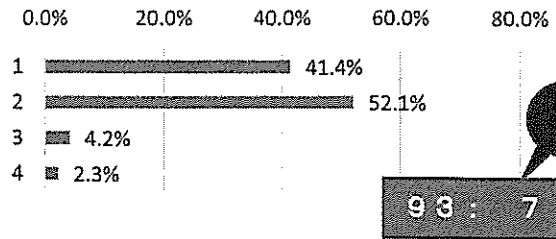


単



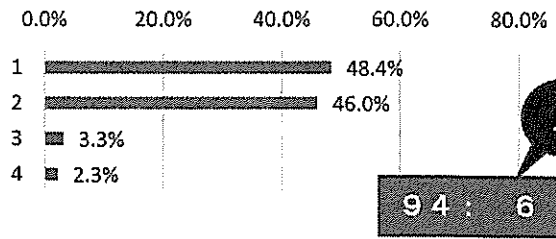
⑤ 【Q6】 教員が各高校の特色を理解することに役立っている。

1 : そう思う	89	41.4%
2 : どちらかといえばそう思う	112	52.1%
3 : どちらかといえばそう思わない	9	4.2%
4 : そう思わない	5	2.3%
回答数合計	215	



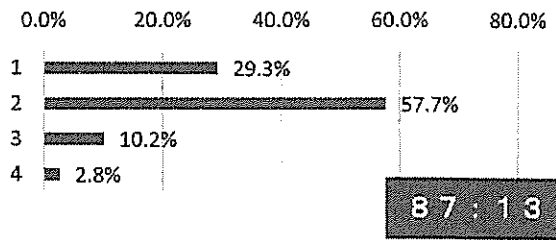
⑥ 【Q7】 教員が受験生に対して進路指導を行うことに役立っている。

1 : そう思う	104	48.4%
2 : どちらかといえばそう思う	99	46.0%
3 : どちらかといえばそう思わない	7	3.3%
4 : そう思わない	5	2.3%
回答数合計	215	



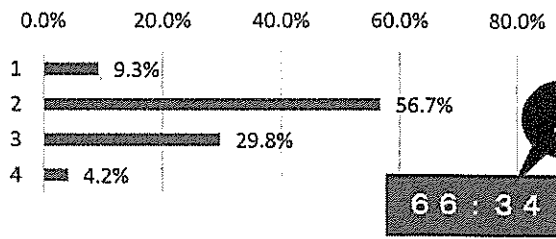
⑦ 【Q8】 受験生が各高校の特色を理解することに役立っている。

1 : そう思う	63	29.3%
2 : どちらかといえばそう思う	124	57.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	22	10.2%
4 : そう思わない	6	2.8%
回答数合計	215	



⑧ 【Q9】 生徒が志をもって中学校生活を充実させることに役立っている。

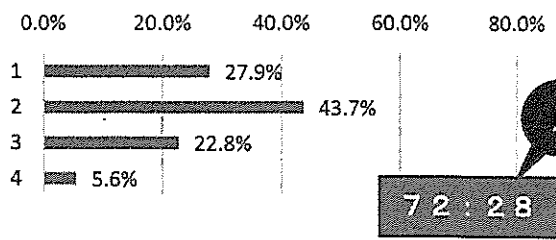
1 : そう思う	20	9.3%
2 : どちらかといえばそう思う	122	56.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	64	29.8%
4 : そう思わない	9	4.2%
回答数合計	215	



(3) 中 (3) 新しい入試制度 (現行入試制度) において、入試日程を一本化したことについて、次の①～⑦の質問にお答えください。

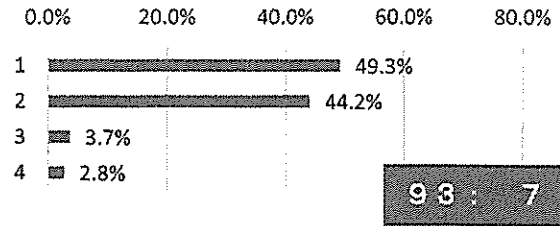
① 【Q10】 入試期間が短くなり、受験生として緊張が継続する負担が軽減している。

1 : そう思う	60	27.9%
2 : どちらかといえばそう思う	94	43.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	49	22.8%
4 : そう思わない	12	5.6%
回答数合計	215	



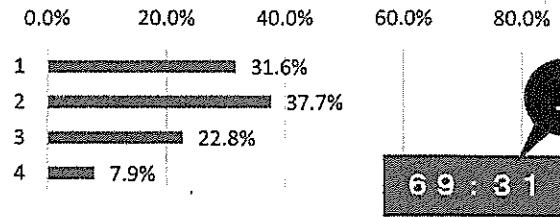
②【Q11】 第一次募集に追試験が導入され、受験に臨む上で、受験生や保護者の安心感につながっている。

1 : そう思う	106	49.3%
2 : どちらかといえばそう思う	95	44.2%
3 : どちらかといえばそう思わない	8	3.7%
4 : そう思わない	6	2.8%
回答数合計	215	



③【Q12】 合格した生徒と受験を控えた生徒が混在することによるクラス運営上の負担が軽減している。

1 : そう思う	68	31.6%
2 : どちらかといえばそう思う	81	37.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	49	22.8%
4 : そう思わない	17	7.9%
回答数合計	215	



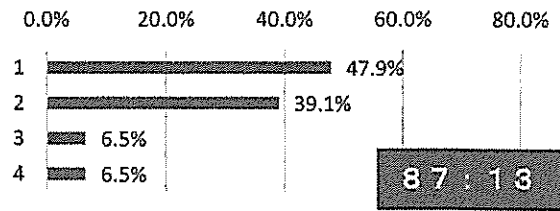
④【Q13】 教員が個々の生徒に対応するための時間を確保することにつながっている。

1 : そう思う	57	26.5%
2 : どちらかといえばそう思う	107	49.8%
3 : どちらかといえばそう思わない	38	17.7%
4 : そう思わない	13	6.0%
回答数合計	215	



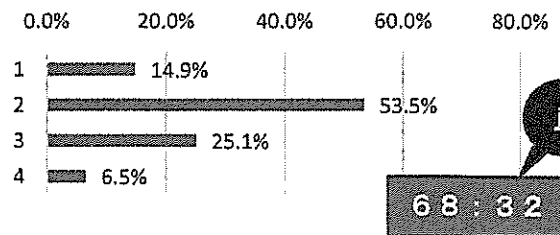
⑤【Q14】 受験指導に費やす時間や出願手続き等の入試事務量の負担軽減につながっている。

1 : そう思う	103	47.9%
2 : どちらかといえばそう思う	84	39.1%
3 : どちらかといえばそう思わない	14	6.5%
4 : そう思わない	14	6.5%
回答数合計	215	



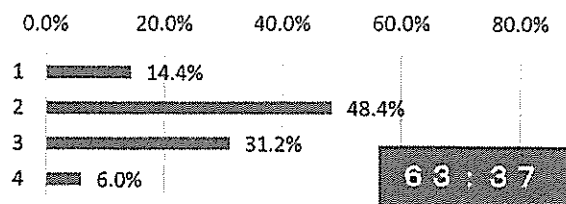
⑥【Q15】 入試期間が短くなり、中学校が教育活動を充実させることに役立っている。

1 : そう思う	32	14.9%
2 : どちらかといえばそう思う	115	53.5%
3 : どちらかといえばそう思わない	54	25.1%
4 : そう思わない	14	6.5%
回答数合計	215	



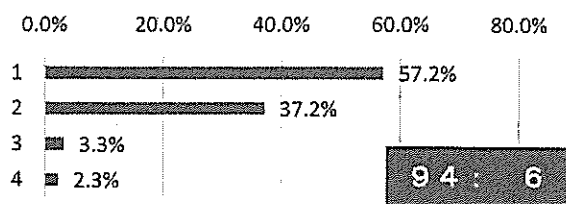
⑦【Q16】生徒が進路を決定する際に、共通選抜だけではなく、特色選抜の選抜方法も十分考慮して進路選択を行っている。

1：そう思う	31	14.4%
2：どちらかといえばそう思う	104	48.4%
3：どちらかといえばそう思わない	67	31.2%
4：そう思わない	13	6.0%
回答数合計	215	



(4) 中 (4) 【Q17】1月中旬に公表している出願希望調査は、受験生の進路選択に役に立っている。

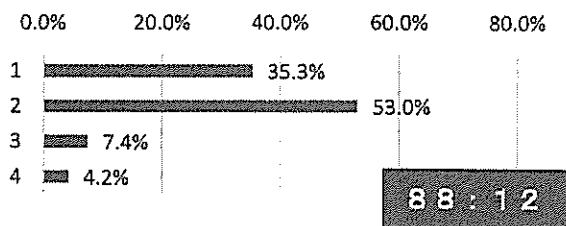
1：そう思う	123	57.2%
2：どちらかといえばそう思う	80	37.2%
3：どちらかといえばそう思わない	7	3.3%
4：そう思わない	5	2.3%
回答数合計	215	



(5) 中 (5) 新しい入試制度（現行入試制度）の日程について、次の①～③の質問にお答えください。

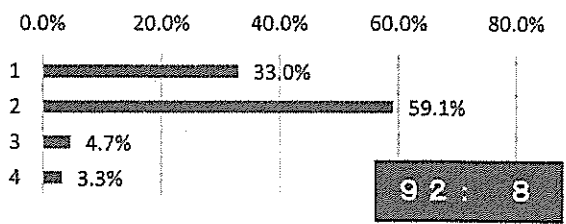
①【Q18】第一次募集の出願から第二次募集の実施までの入試に係る日数は、中学校が受験生に対応する上で適切である。

1：そう思う	76	35.3%
2：どちらかといえばそう思う	114	53.0%
3：どちらかといえばそう思わない	16	7.4%
4：そう思わない	9	4.2%
回答数合計	215	



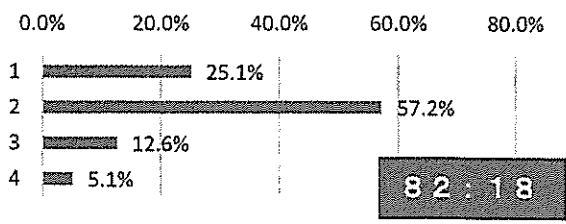
②【Q19】第一次募集の本試験から追試験までの日数は、中学校が受験生に対応する上で適切な期間を保障している。

1：そう思う	71	33.0%
2：どちらかといえばそう思う	127	59.1%
3：どちらかといえばそう思わない	10	4.7%
4：そう思わない	7	3.3%
回答数合計	215	



③【Q20】第一次募集の合格発表から第二次募集までの日数は、中学校が受験生に対応する上で適切な期間を保障している。

1：そう思う	54	25.1%
2：どちらかといえばそう思う	123	57.2%
3：どちらかといえばそう思わない	27	12.6%
4：そう思わない	11	5.1%
回答数合計	215	

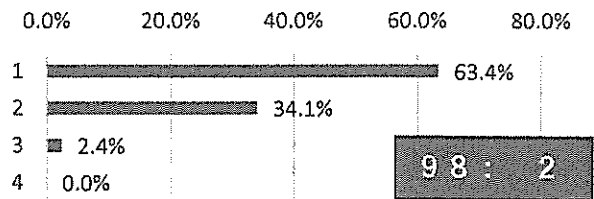


宮城県公立高校入学者選抜に係る質問紙調査 集計結果 【質問対象：高等学校】

(1) 高(1) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、次の①～⑥の質問にお答えください。

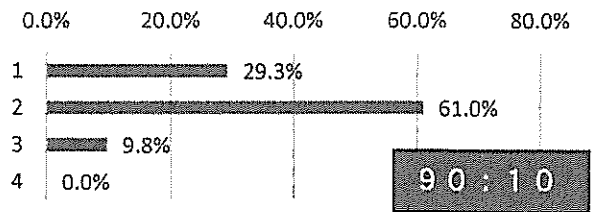
①【Q1】受験生が、志望校選択や受験する上で、必要な内容を記載している。

1：そう思う	52	63.4%
2：どちらかといえばそう思う	28	34.1%
3：どちらかといえばそう思わない	2	2.4%
4：そう思わない	0	0.0%
回答数合計		82



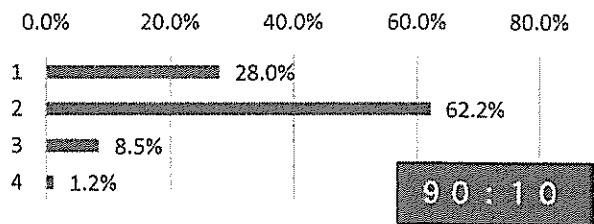
②【Q2】受験生が目的意識を向上させることにつながっている。

1：そう思う	24	29.3%
2：どちらかといえばそう思う	50	61.0%
3：どちらかといえばそう思わない	8	9.8%
4：そう思わない	0	0.0%
回答数合計		82



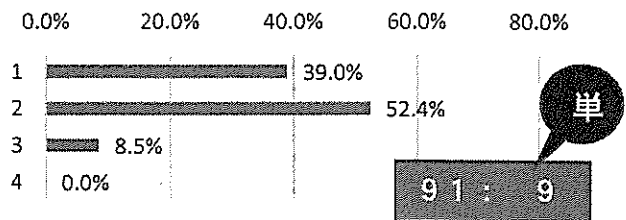
③【Q3】受験生の意思や判断に基づいた主体的な進路選択につながっている。

1：そう思う	23	28.0%
2：どちらかといえばそう思う	51	62.2%
3：どちらかといえばそう思わない	7	8.5%
4：そう思わない	1	1.2%
回答数合計		82



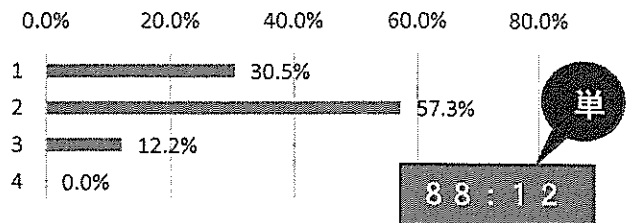
④【Q4】各高校が進める特色ある学校づくりに役立っている。

1：そう思う	32	39.0%
2：どちらかといえばそう思う	43	52.4%
3：どちらかといえばそう思わない	7	8.5%
4：そう思わない	0	0.0%
回答数合計		82



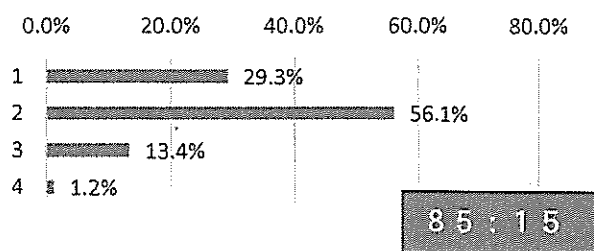
⑤【Q5】中学校の教員が、各高校の特色を理解することに役立っている。

1：そう思う	25	30.5%
2：どちらかといえばそう思う	47	57.3%
3：どちらかといえばそう思わない	10	12.2%
4：そう思わない	0	0.0%
回答数合計		82



⑥【Q6】受験生が各高校の特色を理解することに役立っている。

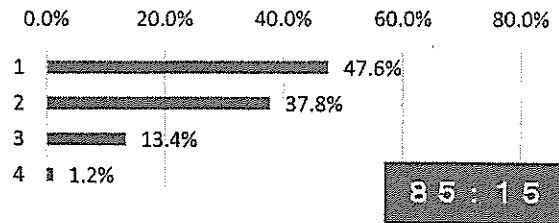
1：そう思う	24	29.3%
2：どちらかといえばそう思う	46	56.1%
3：どちらかといえばそう思わない	11	13.4%
4：そう思わない	1	1.2%
回答数合計		82



(2) 高(2) 新しい入試制度(現行入試制度)において、入試日程を一本化し、共通選抜と特色選抜を設定したことについて、次の①～⑥の質問にお答えください。

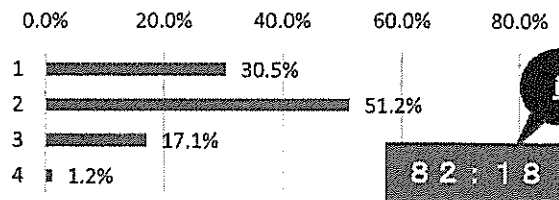
①【Q7】入試期間が短くなり、在校生徒に対応する時間の確保につながっている。

1 : そう思う	39	47.6%
2 : どちらかといえばそう思う	31	37.8%
3 : どちらかといえばそう思わない	11	13.4%
4 : そう思わない	1	1.2%
回答数合計	82	



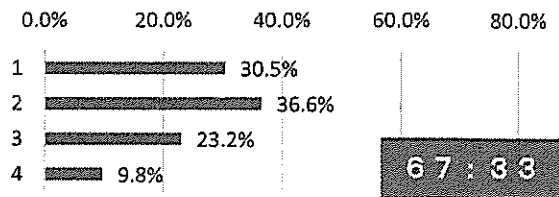
②【Q8】入試期間が短くなり、高校の教育活動を充実させることに役立っている。

1 : そう思う	25	30.5%
2 : どちらかといえばそう思う	42	51.2%
3 : どちらかといえばそう思わない	14	17.1%
4 : そう思わない	1	1.2%
回答数合計	82	



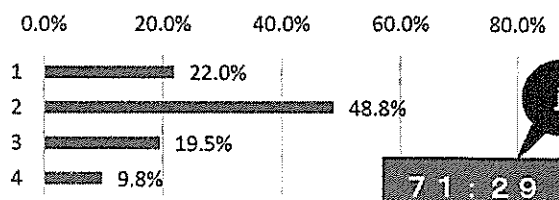
③【Q9】高校における入試業務の負担が軽減している。

1 : そう思う	25	30.5%
2 : どちらかといえばそう思う	30	36.6%
3 : どちらかといえばそう思わない	19	23.2%
4 : そう思わない	8	9.8%
回答数合計	82	



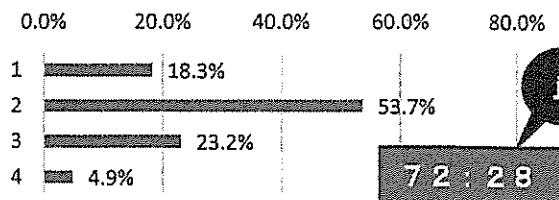
④【Q10】入試日程を一本化しても、複数の選抜機会が維持されている。

1 : そう思う	18	22.0%
2 : どちらかといえばそう思う	40	48.8%
3 : どちらかといえばそう思わない	16	19.5%
4 : そう思わない	8	9.8%
回答数合計	82	



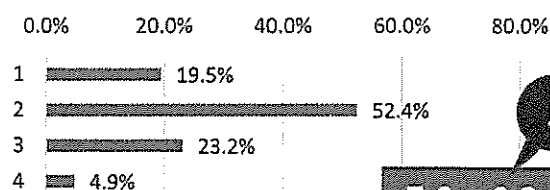
⑤【Q11】学校の特色に沿った資質・能力を多面的に評価することにつながっている。

1 : そう思う	15	18.3%
2 : どちらかといえばそう思う	44	53.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	19	23.2%
4 : そう思わない	4	4.9%
回答数合計	82	



⑥ 【Q12】 求める生徒像に沿った資質・能力を多面的に評価することにつながっている。

1 : そう思う	16	19.5%
2 : どちらかといえばそう思う	43	52.4%
3 : どちらかといえばそう思わない	19	23.2%
4 : そう思わない	4	4.9%
回答数合計	82	

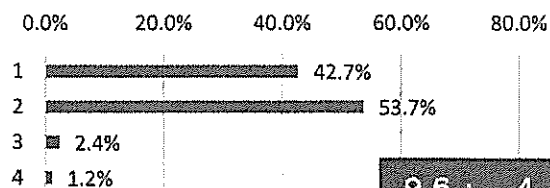


72 : 28

単

(3) 高 (3) 【Q13】 1月中旬に公表している出願希望調査は、受験生の進路選択に役立っている。

1 : そう思う	35	42.7%
2 : どちらかといえばそう思う	44	53.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	2	2.4%
4 : そう思わない	1	1.2%
回答数合計	82	

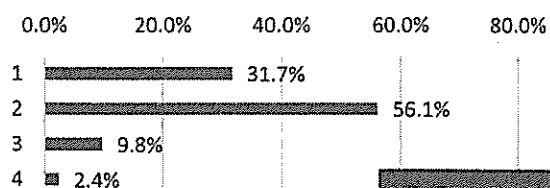


96 : 4

(4) 高 (4) 新しい入試制度（現行入試制度）の日程について、次の①～③の質問にお答えください。

① 【Q14】 第一次募集の出願から第二次募集の実施までの入試に係る日数は、高校が入試を実施する上で適切である。

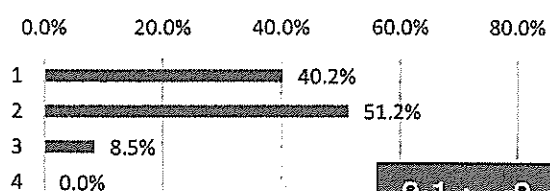
1 : そう思う	26	31.7%
2 : どちらかといえばそう思う	46	56.1%
3 : どちらかといえばそう思わない	8	9.8%
4 : そう思わない	2	2.4%
回答数合計	82	



83 : 12

② 【Q15】 第一次募集の本試験から追試験までの日数は、高校が入試を実施する上で適切な期間を保障している。

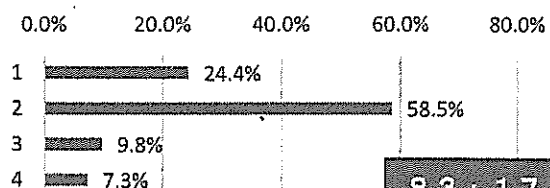
1 : そう思う	33	40.2%
2 : どちらかといえばそう思う	42	51.2%
3 : どちらかといえばそう思わない	7	8.5%
4 : そう思わない	0	0.0%
回答数合計	82	



91 : 9

③ 【Q16】 第一次募集の合格発表から第二次募集までの日数は、高校が入試を実施する上で適切な期間を保障している。

1 : そう思う	20	24.4%
2 : どちらかといえばそう思う	48	58.5%
3 : どちらかといえばそう思わない	8	9.8%
4 : そう思わない	6	7.3%
回答数合計	82	



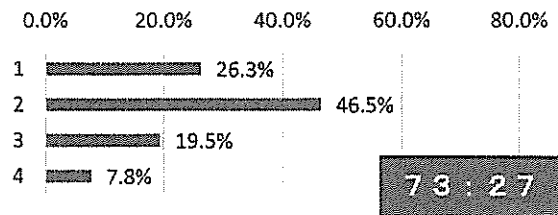
83 : 17

宮城県公立高校入学者選抜に係る質問紙調査 集計結果 【質問対象：生徒】

(1) 生 (1) 高校入試（学力検査）について、次の①～③の質問にお答えください。

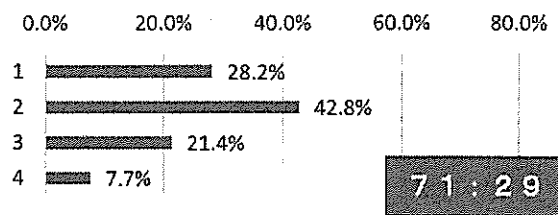
①【Q1】自分の将来を考える機会になった。

1：そう思う	792	26.3%
2：どちらかといえばそう思う	1399	46.5%
3：どちらかといえばそう思わない	586	19.5%
4：そう思わない	234	7.8%
回答数合計	3011	



②【Q2】中学校生活において、日頃の学習意欲を高めることに役立った。

1：そう思う	848	28.2%
2：どちらかといえばそう思う	1288	42.8%
3：どちらかといえばそう思わない	644	21.4%
4：そう思わない	231	7.7%
回答数合計	3011	



③【Q3】中学校生活において、学習習慣を身に付けることに役立った。

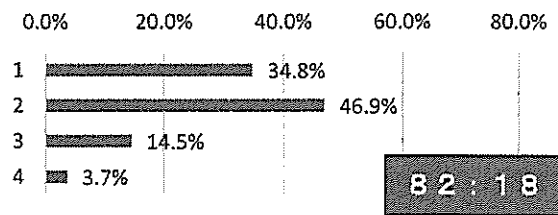
1：そう思う	752	25.0%
2：どちらかといえばそう思う	1296	43.0%
3：どちらかといえばそう思わない	703	23.3%
4：そう思わない	260	8.6%
回答数合計	3011	



(2) 生 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、次の①～⑤の質問にお答えください。

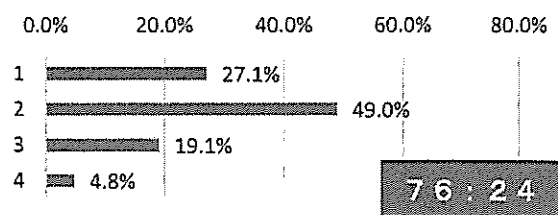
①【Q4】受験生が、志望校選択や受験する上で、必要な内容が記載されていた。

1：そう思う	1049	34.8%
2：どちらかといえばそう思う	1413	46.9%
3：どちらかといえばそう思わない	438	14.5%
4：そう思わない	111	3.7%
回答数合計	3011	



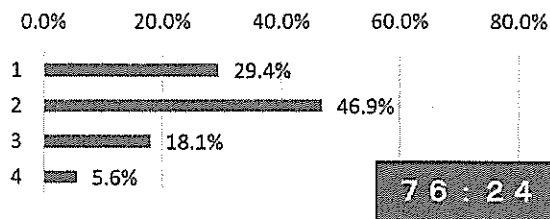
②【Q5】受験生にとって、内容がわかりやすく記載されていた。

1：そう思う	815	27.1%
2：どちらかといえばそう思う	1474	49.0%
3：どちらかといえばそう思わない	576	19.1%
4：そう思わない	146	4.8%
回答数合計	3011	



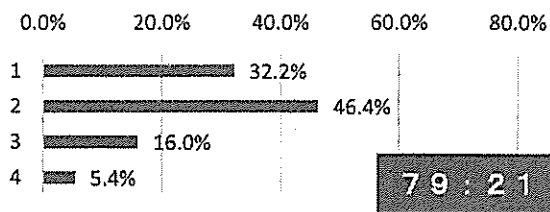
③【Q6】受験生が各高校の特色の理解することに役立った。

1 : そう思う	886	29.4%
2 : どちらかといえばそう思う	1411	46.9%
3 : どちらかといえばそう思わない	544	18.1%
4 : そう思わない	170	5.6%
回答数合計	3011	



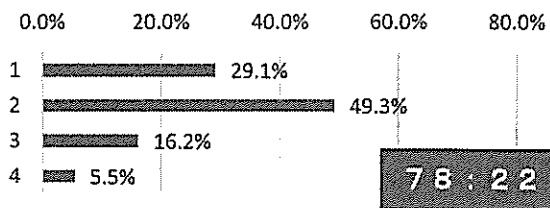
④【Q7】受験生が進路に対する意識を高めることに役立った。

1 : そう思う	969	32.2%
2 : どちらかといえばそう思う	1396	46.4%
3 : どちらかといえばそう思わない	482	16.0%
4 : そう思わない	164	5.4%
回答数合計	3011	



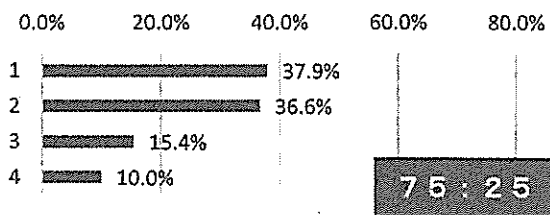
⑤【Q8】自分の意思や判断に基づいた主体的な進路選択に役立った。

1 : そう思う	876	29.1%
2 : どちらかといえばそう思う	1483	49.3%
3 : どちらかといえばそう思わない	487	16.2%
4 : そう思わない	165	5.5%
回答数合計	3011	



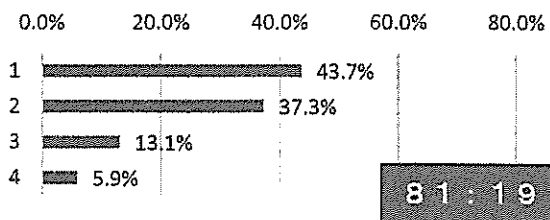
(3) 生 (3) 【Q9】第一次募集に追試験を導入したことは、受験に臨む上での安心感につながった。

1 : そう思う	1142	37.9%
2 : どちらかといえばそう思う	1103	36.6%
3 : どちらかといえばそう思わない	465	15.4%
4 : そう思わない	301	10.0%
回答数合計	3011	



(4) 生 (4) 【Q10】1月中旬に公表している出願希望調査は進路選択に役立った。

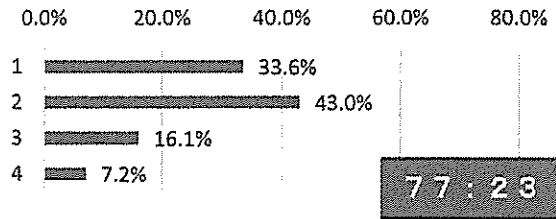
1 : そう思う	1315	43.7%
2 : どちらかといえばそう思う	1124	37.3%
3 : どちらかといえばそう思わない	394	13.1%
4 : そう思わない	178	5.9%
回答数合計	3011	





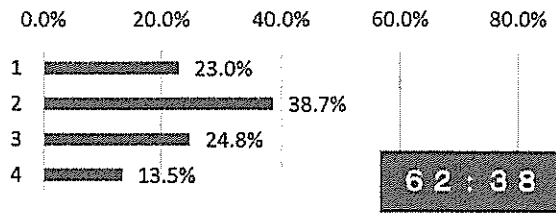
(5) 生 (5) 【Q11】 第一次募集の出願から本試験を経て合格発表までの入試に係る日数は、受験生にとって適切であった。

1 : そう思う	1012	33.6%
2 : どちらかといえばそう思う	1296	43.0%
3 : どちらかといえばそう思わない	486	16.1%
4 : そう思わない	217	7.2%
回答数合計	3011	



(6) 生 (6) 【Q12】 進路を決定する際に、共通選抜だけではなく、特色選抜の選抜方法も十分考慮して進路選択を行った。

1 : そう思う	692	23.0%
2 : どちらかといえばそう思う	1165	38.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	747	24.8%
4 : そう思わない	407	13.5%
回答数合計	3011	

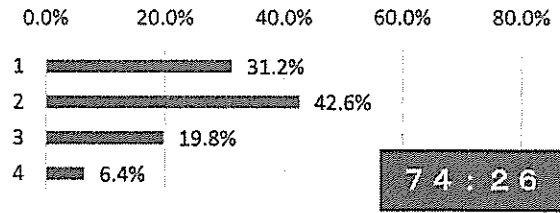


宮城県公立高校入学者選抜に係る質問紙調査 集計結果 【質問対象：保護者】

(1) 保 (1) 高校入試 (学力検査) について、次の①～③の質問にお答えください。

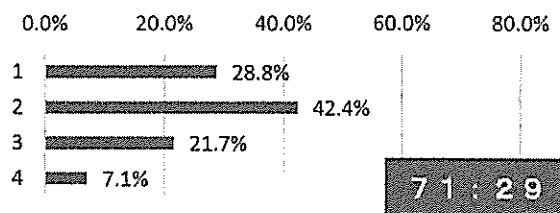
①【Q1】受験生が将来について考える機会になった。

1 : そう思う	654	31.2%
2 : どちらかといえばそう思う	892	42.6%
3 : どちらかといえばそう思わない	414	19.8%
4 : そう思わない	135	6.4%
回答数合計	2095	



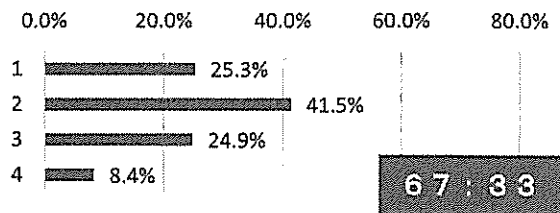
②【Q2】中学校生活において、受験生が日頃の学習意欲を高めることに役立った。

1 : そう思う	603	28.8%
2 : どちらかといえばそう思う	889	42.4%
3 : どちらかといえばそう思わない	454	21.7%
4 : そう思わない	149	7.1%
回答数合計	2095	



③【Q3】中学校生活において、受験生が学習習慣を身に付けることに役立った。

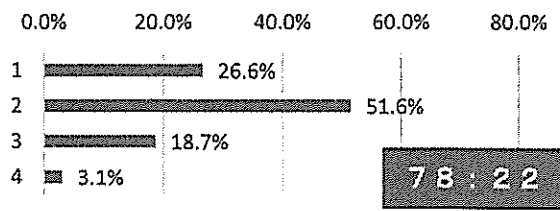
1 : そう思う	530	25.3%
2 : どちらかといえばそう思う	869	41.5%
3 : どちらかといえばそう思わない	521	24.9%
4 : そう思わない	175	8.4%
回答数合計	2095	



(2) 保 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、次の①～⑤の質問にお答えください。

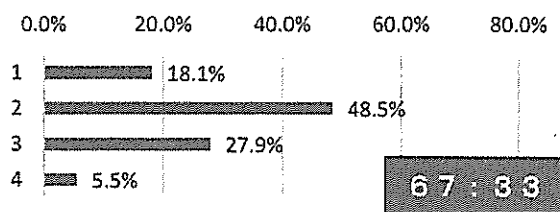
①【Q4】受験生が、志望校選択や受験する上で、必要な内容が記載されていた。

1 : そう思う	557	26.6%
2 : どちらかといえばそう思う	1081	51.6%
3 : どちらかといえばそう思わない	392	18.7%
4 : そう思わない	65	3.1%
回答数合計	2095	



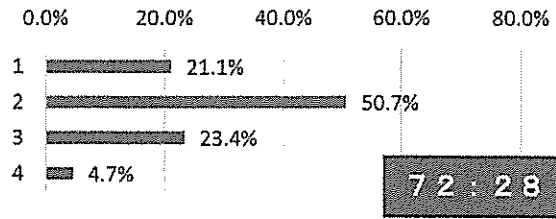
②【Q5】受験生にとって、内容がわかりやすく記載されていた。

1 : そう思う	380	18.1%
2 : どちらかといえばそう思う	1016	48.5%
3 : どちらかといえばそう思わない	584	27.9%
4 : そう思わない	115	5.5%
回答数合計	2095	



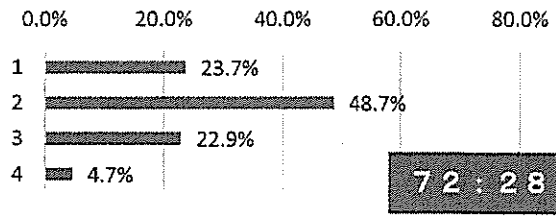
③ 【Q6】 受験生が各高校の特色を理解することに役立った。

1 : そう思う	443	21.1%
2 : どちらかといえばそう思う	1063	50.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	490	23.4%
4 : そう思わない	99	4.7%
回答数合計	2095	



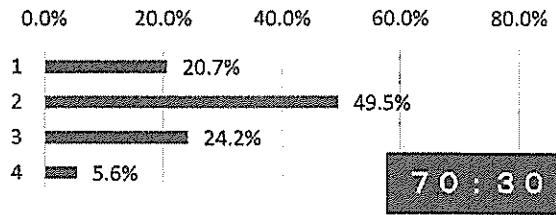
④ 【Q7】 受験生が進路に対する意識を高めることに役立った。

1 : そう思う	496	23.7%
2 : どちらかといえばそう思う	1020	48.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	480	22.9%
4 : そう思わない	99	4.7%
回答数合計	2095	



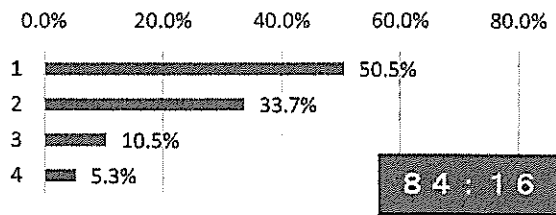
⑤ 【Q8】 受験生の意思や判断に基づいた主体的な進路選択に役立った。

1 : そう思う	433	20.7%
2 : どちらかといえばそう思う	1038	49.5%
3 : どちらかといえばそう思わない	507	24.2%
4 : そう思わない	117	5.6%
回答数合計	2095	



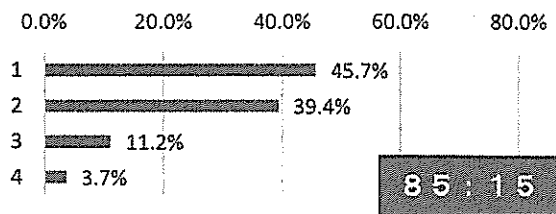
(3) 保 (3) 【Q9】 第一次募集に追試験を導入したことは、受験生や保護者に対して、受験に臨む上での安心感につながった。

1 : そう思う	1058	50.5%
2 : どちらかといえばそう思う	705	33.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	220	10.5%
4 : そう思わない	112	5.3%
回答数合計	2095	



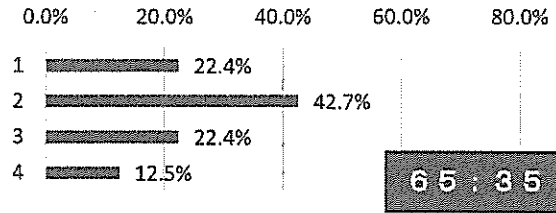
(4) 保 (4) 【Q10】 1月中旬に公表している出願希望調査は、受験生の進路選択に役立った。

1 : そう思う	957	45.7%
2 : どちらかといえばそう思う	825	39.4%
3 : どちらかといえばそう思わない	235	11.2%
4 : そう思わない	78	3.7%
回答数合計	2095	



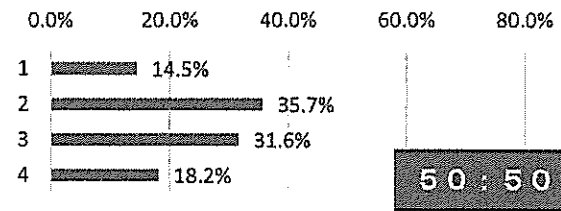
- (5) 保 (5) 【Q11】 第一次募集の出願から本試験を経て合格発表までの入試に係る日数は、受験生にとって適切であった。

1 : そう思う	470	22.4%
2 : どちらかといえばそう思う	894	42.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	470	22.4%
4 : そう思わない	261	12.5%
回答数合計	2095	



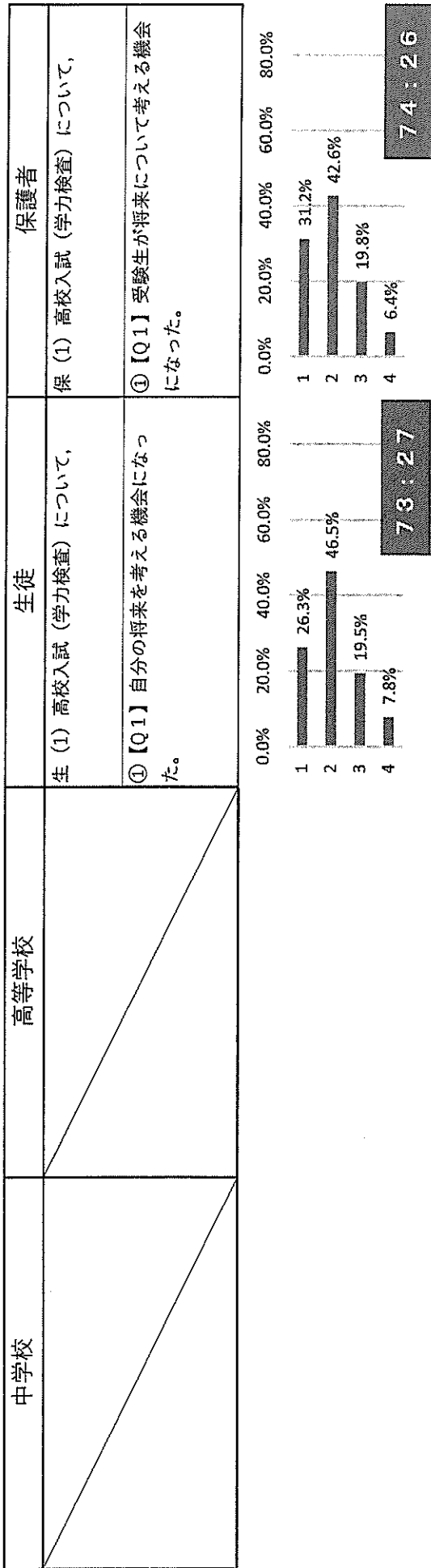
- (6) 保 (6) 【Q12】 受験生が進路を決定する際に、共通選抜だけではなく、特色選抜の選抜方法も十分考慮して進路選択を行った。

1 : そう思う	303	14.5%
2 : どちらかといえばそう思う	747	35.7%
3 : どちらかといえばそう思わない	663	31.6%
4 : そう思わない	382	18.2%
回答数合計	2095	

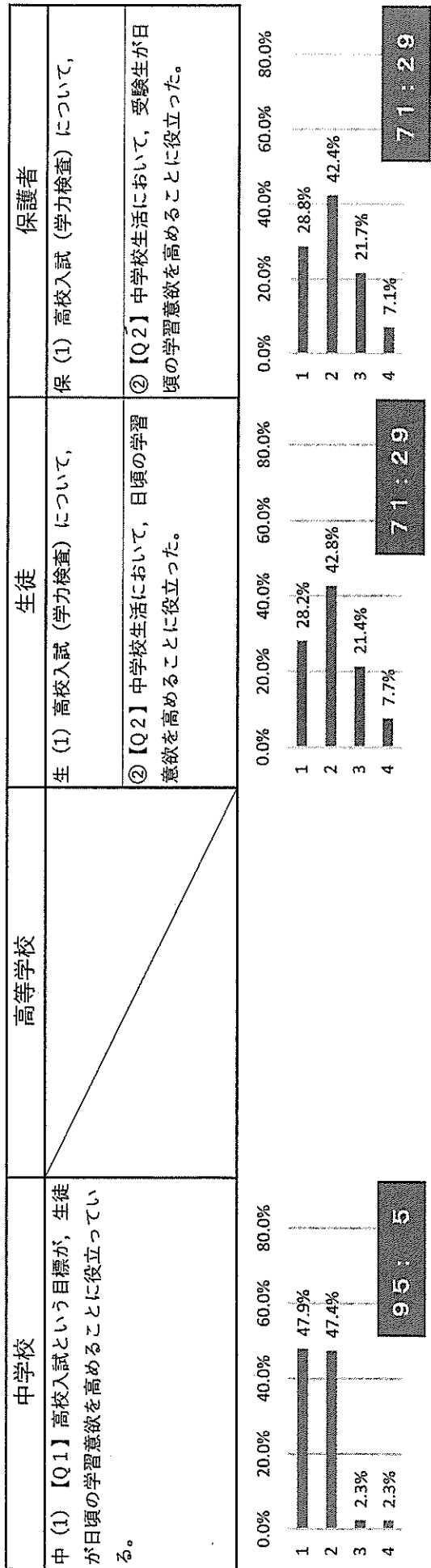


項目	中学校	高等学校	生徒	保護者
1 【高校入試】 将来を考える機会を向上			生 (1) ① 【Q1】	保 (1) ① 【Q1】
2 【高校入試】 学習意欲の向上	中 (1) 【Q1】		生 (1) ② 【Q2】	保 (1) ② 【Q2】
3 【高校入試】 学習習慣に影響			生 (1) ③ 【Q3】	保 (1) ③ 【Q3】
4 【求める生徒像・選抜方法】 必要な内容記載	中 (2) ① 【Q2】	高 (1) ① 【Q1】	生 (2) ① 【Q4】	保 (2) ① 【Q4】
5 【求める生徒像・選抜方法】 わかりやすい記載内容			生 (2) ② 【Q5】	保 (2) ② 【Q5】
6 【求める生徒像・選抜方法】 進路意識の向上	中 (2) ② 【Q3】	高 (1) ② 【Q2】	生 (2) ④ 【Q7】	保 (2) ④ 【Q7】
7 【求める生徒像・選抜方法】 主体的な進路選択	中 (2) ③ 【Q4】	高 (1) ③ 【Q3】	生 (2) ⑤ 【Q8】	保 (2) ⑤ 【Q8】
8 【求める生徒像・選抜方法】 各高校の特色理解	中 (2) ⑦ 【Q8】	高 (1) ⑥ 【Q6】	生 (2) ③ 【Q6】	保 (2) ③ 【Q6】
9 【入試日程一本化】 生徒への対応時間確保	中 (3) ④ 【Q13】	高 (2) ① 【Q7】		
10 【入試日程一本化】 追試験導入による精神的影響	中 (3) ② 【Q11】		生 (3) 【Q9】	保 (3) 【Q9】
11 【入試日程一本化】 業務負担軽減	中 (3) ⑤ 【Q14】	高 (2) ③ 【Q9】		
12 【入試日程一本化】 複数の選抜を考慮した進路選択	中 (3) ⑦ 【Q16】		生 (6) 【Q12】	保 (6) 【Q12】
13 【出願希望調査】 進路選択への影響	中 (4) 【Q17】	高 (3) 【Q13】	生 (4) 【Q10】	保 (4) 【Q10】
14 【受験期間としての日数】 第一次募集出願から第二次募集	中 (5) ① 【Q18】	高 (4) ① 【Q14】	生 (5) 【Q11】	保 (5) 【Q11】
15 【受験期間としての日数】 本試験から追試験	中 (5) ② 【Q19】	高 (4) ② 【Q15】		
16 【受験期間としての日数】 第一次合格発表から第二次募集	中 (5) ③ 【Q20】	高 (4) ③ 【Q16】		
中1 【求める生徒像・選抜方法】 学習習慣への影響	中 (2) ④ 【Q5】			
中2 【求める生徒像・選抜方法】 中学校教員が高校の特色理解	中 (2) ⑤ 【Q6】			
中3 【求める生徒像・選抜方法】 中学校での受験指導への影響	中 (2) ⑥ 【Q7】			
中4 【求める生徒像・選抜方法】 志をもった生活充実への影響	中 (2) ⑧ 【Q9】			
中5 【入試日程一本化】 期間短縮による精神的負担	中 (3) ① 【Q10】			
中6 【入試日程一本化】 受験前後生徒混在クラスの経営	中 (3) ③ 【Q12】			
中7 【入試期間一本化】 中学校の教育活動充実への影響	中 (3) ⑥ 【Q15】			
高1 【求める生徒像・選抜方法】 高校の特色づくりへの影響		高 (1) ④ 【Q4】		
高2 【求める生徒像・選抜方法】 中学校教員の特色理解への影響		高 (1) ⑤ 【Q5】		
高3 【入試期間一本化】 高校の教育活動充実への影響		高 (2) ② 【Q8】		
高4 【入試期間一本化】 複数の選抜機会の維持		高 (2) ④ 【Q10】		
高5 【入試期間一本化】 特色に沿った評価		高 (2) ⑤ 【Q11】		
高6 【入試期間一本化】 求める生徒像に沿った評価		高 (2) ⑥ 【Q12】		

【1】 将来を考える機会としての高校入試

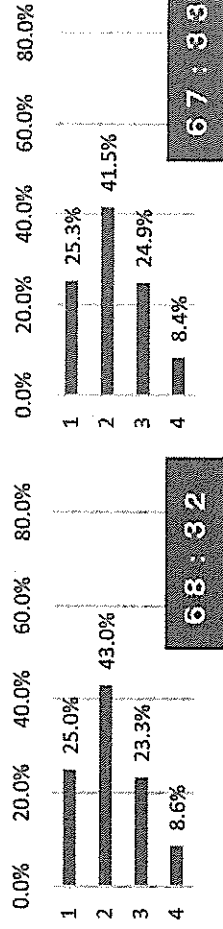


【2】 高校入試の学習意欲への影響



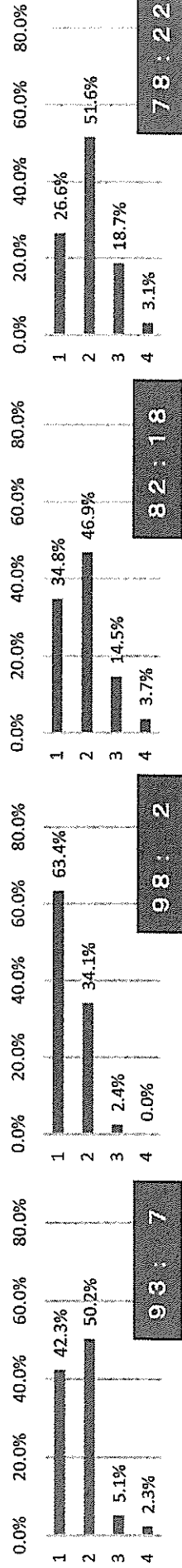
【3】高校入試と学習習慣を身に付けることとの関係性

中学校	高等学校	生徒	保護者
		生 (1) 高校入試 (学力検査) について、 ③【Q3】中学校生活において、学習習慣を身に付けることに役立った。	保 (1) 高校入試 (学力検査) について、 ③【Q3】中学校生活において、受験生が学習習慣を身に付けることに役立った。



【4】求める生徒像・選抜方法の記載内容

中学校	高等学校	生徒	保護者
中 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、 ①【Q2】生徒が、志望校選択や受験する上で、必要な内容が記載されている。	高 (1) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、 ①【Q1】受験生が、志望校選択や受験する上で、必要な内容を記載している。	生 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、 ①【Q4】受験生が、志望校選択や受験する上で、必要な内容が記載されていた。	保 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、 ①【Q4】受験生が、志望校選択や受験する上で、必要な内容が記載されていた。



【5】 求める生徒像・選抜方法の表現

中学校	高等学校	生徒	保護者
		生 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、 ②【Q5】受験生にとって、内容がわかりやすく記載されていた。	保 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、 ②【Q5】受験生にとって、内容がわかりやすく記載されていた。

中学校	高等学校	生徒	保護者														
<p>0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0%</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>27.1%</td></tr> <tr><td>2</td><td>49.0%</td></tr> <tr><td>3</td><td>19.1%</td></tr> <tr><td>4</td><td>4.8%</td></tr> </table> <p>76 : 24</p>	1	27.1%	2	49.0%	3	19.1%	4	4.8%	<p>0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0%</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>18.1%</td></tr> <tr><td>2</td><td>48.5%</td></tr> <tr><td>3</td><td>27.9%</td></tr> <tr><td>4</td><td>5.5%</td></tr> </table> <p>67 : 33</p>	1	18.1%	2	48.5%	3	27.9%	4	5.5%
1	27.1%																
2	49.0%																
3	19.1%																
4	4.8%																
1	18.1%																
2	48.5%																
3	27.9%																
4	5.5%																

【6】 求める生徒像・選抜方法による進路意識への影響

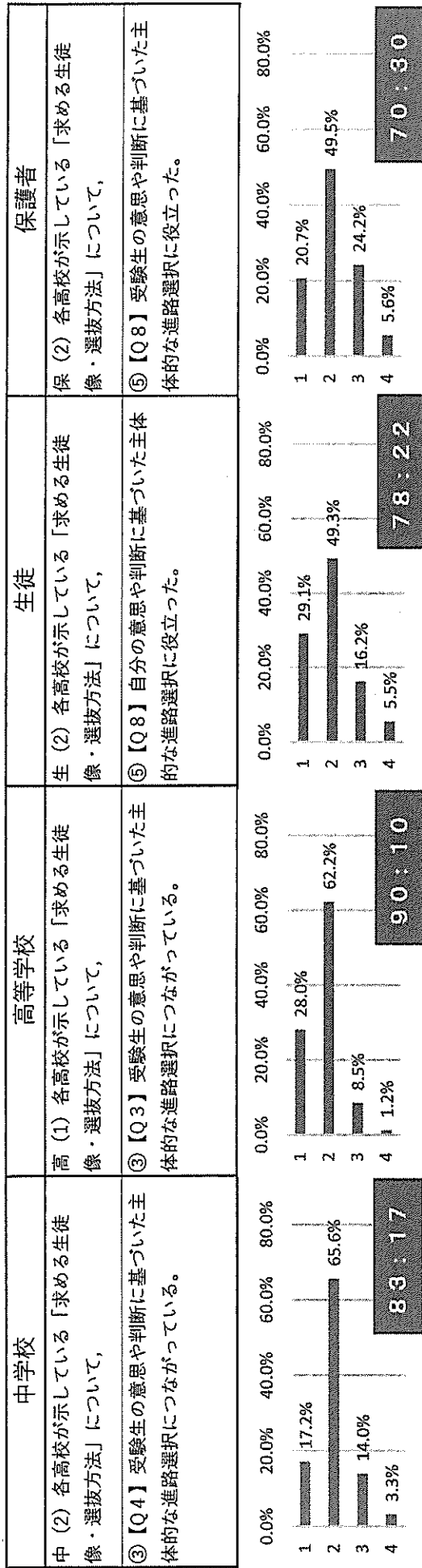
中学校	高等学校	生徒	保護者
中 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、 ②【Q3】受験生の進路に対する意識を高めることにつながっている。	高 (1) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、 ②【Q2】受験生が目的意識を向上させることにつながっている。	生 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、 ④【Q7】受験生が進路に対する意識を高めることに役立った。	保 (2) 各高校が示している「求める生徒像・選抜方法」について、 ④【Q7】受験生が進路に対する意識を高めることに役立った。

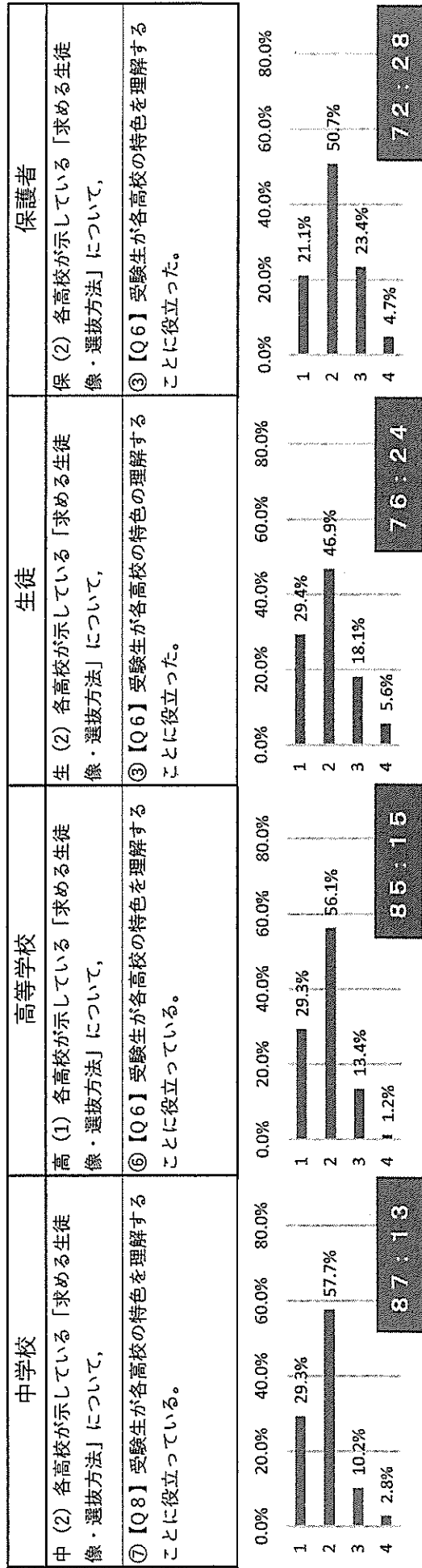
中学校	高等学校	生徒	保護者																																
<p>0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0%</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>25.6%</td></tr> <tr><td>2</td><td>63.3%</td></tr> <tr><td>3</td><td>8.8%</td></tr> <tr><td>4</td><td>2.3%</td></tr> </table> <p>89 : 11</p>	1	25.6%	2	63.3%	3	8.8%	4	2.3%	<p>0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0%</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>29.3%</td></tr> <tr><td>2</td><td>61.0%</td></tr> <tr><td>3</td><td>9.8%</td></tr> <tr><td>4</td><td>0.0%</td></tr> </table> <p>90 : 10</p>	1	29.3%	2	61.0%	3	9.8%	4	0.0%	<p>0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0%</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>32.2%</td></tr> <tr><td>2</td><td>46.4%</td></tr> <tr><td>3</td><td>16.0%</td></tr> <tr><td>4</td><td>5.4%</td></tr> </table> <p>79 : 21</p>	1	32.2%	2	46.4%	3	16.0%	4	5.4%	<p>0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0%</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>23.7%</td></tr> <tr><td>2</td><td>48.7%</td></tr> <tr><td>3</td><td>22.9%</td></tr> <tr><td>4</td><td>4.7%</td></tr> </table> <p>72 : 28</p>	1	23.7%	2	48.7%	3	22.9%	4	4.7%
1	25.6%																																		
2	63.3%																																		
3	8.8%																																		
4	2.3%																																		
1	29.3%																																		
2	61.0%																																		
3	9.8%																																		
4	0.0%																																		
1	32.2%																																		
2	46.4%																																		
3	16.0%																																		
4	5.4%																																		
1	23.7%																																		
2	48.7%																																		
3	22.9%																																		
4	4.7%																																		



【7】 求める生徒像・選抜方法による主体的な進路選択への影響

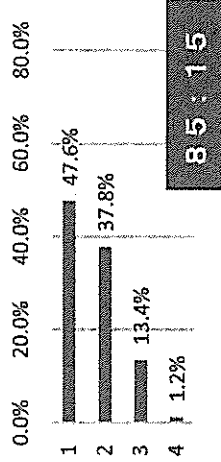
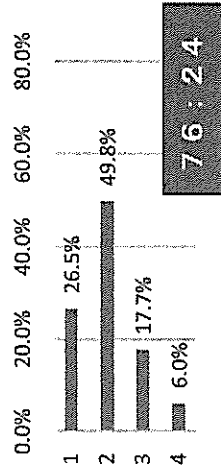


【8】 求める生徒像・選抜方法による各高校の特色についての理解



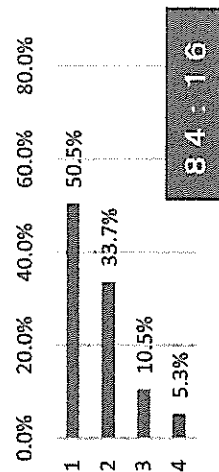
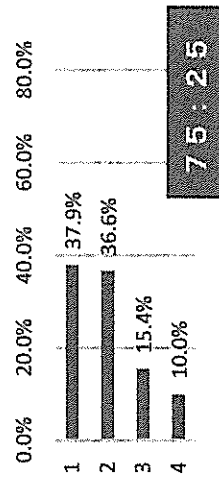
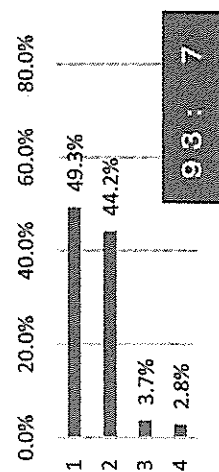
【9】入試日程の一本化による生徒対応への影響

中学校	高等学校	生徒	保護者
<p>中 (3) 現行入試制度において、入試日程を一本化したことについて、</p> <p>④【Q13】 教員が個々の生徒に対応するための時間を確保することにつながっている。</p>	<p>高 (2) 現行入試制度において、入試日程を一本化し、共通選抜と特色選抜を設定した点について、</p> <p>①【Q7】 入試期間が短くなり、在校生徒に対応する時間の確保につながっている。</p>		



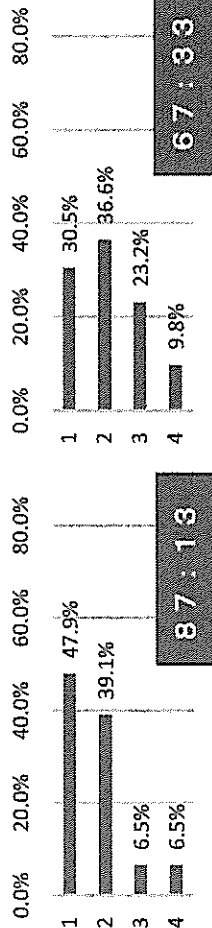
【10】第一次募集に追試験を導入したことによる精神的な影響

中学校	高等学校	生徒	保護者
<p>中 (3) 現行入試制度において、入試日程を一本化したことについて、</p> <p>②【Q11】 第一次募集に追試験が導入され、受験に臨む上で、受験生や保護者の安心感につながっている。</p>		<p>生 (3) 【Q9】 第一次募集に追試験を導入したことは、受験に臨む上での安心感につながった。</p>	<p>保 (3) 【Q9】 第一次募集に追試験を導入したことは、受験生や保護者に対して、受験に臨む上での安心感につながった。</p>



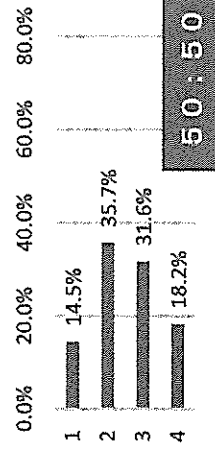
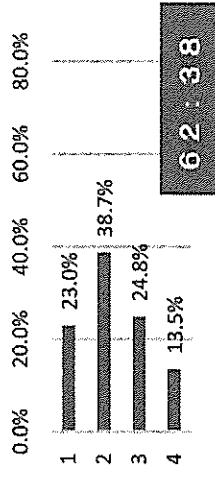
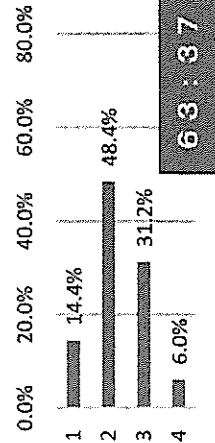
【11】入試日程の一本化による業務負担軽減

中学校	高等学校	生徒	保護者
<p>中 (3) 現行入試制度において、入試日程を一本化したことについて、</p> <p>⑤【Q14】受験指導に費やす時間や出願手続き等の入試事務量の負担軽減につながっている。</p>	<p>高 (2) 現行入試制度において、入試日程を一本化し、共通選抜と特色選抜を設定したことについて、</p> <p>③【Q9】高校における入試業務の負担が軽減している。</p>		

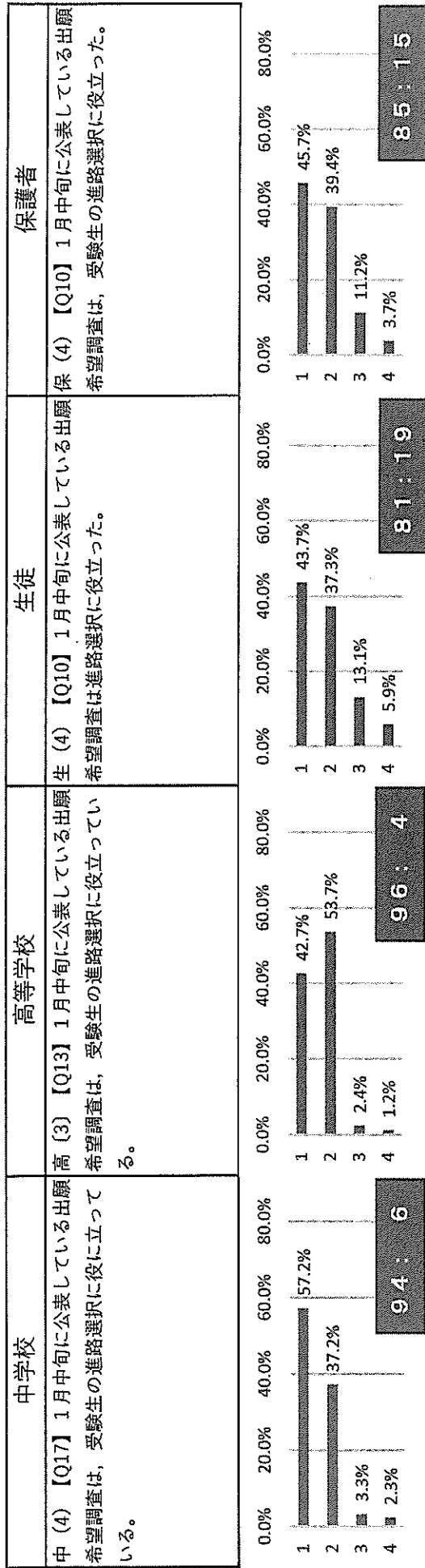


【12】共通選抜と特色選抜を考慮した進路選択

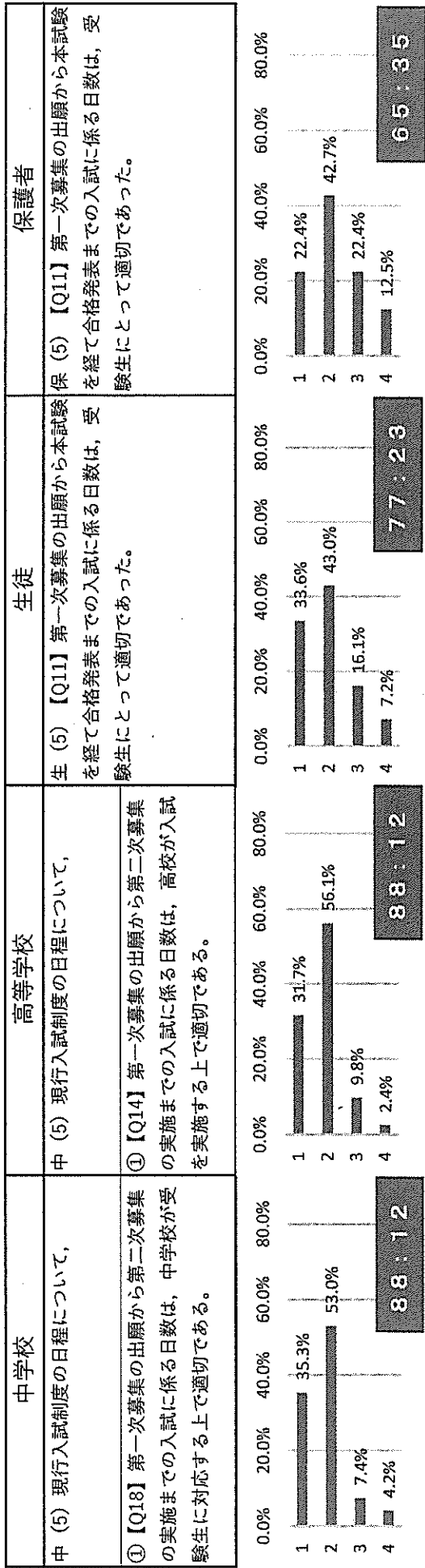
中学校	高等学校	生徒	保護者
<p>中 (3) 現行入試制度において、入試日程を一本化したことについて、</p> <p>⑦【Q16】生徒が進路を決定する際に、共通選抜だけでなく、特色選抜の選抜方法も十分考慮して進路選択を行っている。</p>		<p>生 (6)【Q12】進路を決定する際に、共通選抜だけでなく、特色選抜の選抜方法も十分考慮して進路選択を行った。</p>	<p>保 (6)【Q12】受験生が進路を決定する際に、共通選抜だけでなく、特色選抜の選抜方法も十分考慮して進路選択を行った。</p>



【13】出願希望調査の進路選択への影響

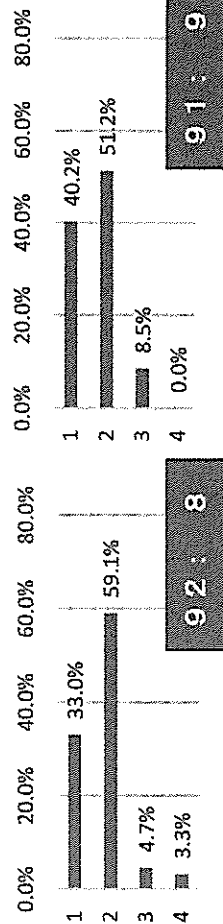


【14】第一次募集の出願から第二次募集までの全体的な日数



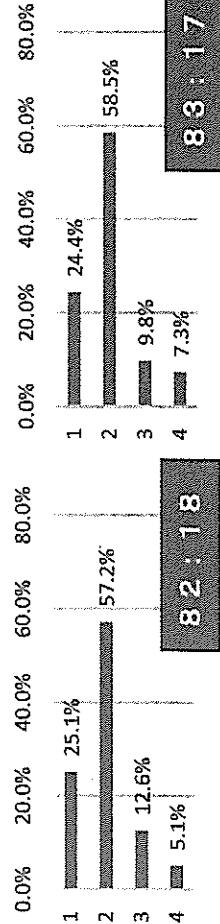
【15】 第一次募集の本試験から追試験までの日数

中学校	高等学校	生徒	保護者
中 (5) 現行入試制度の日程について、 ② 【Q19】 第一次募集の本試験から追試験までの日数は、中学校が受験生に対応する上で適切な期間を保障している。	中 (5) 現行入試制度の日程について、 ② 【Q15】 第一次募集の本試験から追試験までの日数は、高校が入試を実施する上で適切な期間を保障している。		



【16】 第一次募集の合格発表から第二次募集までの日数

中学校	高等学校	生徒	保護者
中 (5) 現行入試制度の日程について、 ③ 【Q20】 第一次募集の合格発表から第二次募集までの日数は、中学校が受験生に対応する上で適切な期間を保障している。	中 (5) 現行入試制度の日程について、 ③ 【Q16】 第一次募集の合格発表から第二次募集までの日数は、高校が入試を実施する上で適切な期間を保障している。		



## 自由記述について

### I 【中学校】 総回答数 215 校中、評価及び感想等を除く有効記述 32 校が記載あり

#### 1 入試事務関係で対応可能な内容 9 件

	記載内容	説明会等での対応案
1	調査書の評定の記載で、不登校生徒の評定が空欄でも「可」ということについて、再度周知して欲しい。	再度説明を徹底
2	第二次募集実施校の情報をできるだけ早く欲しい。	すでに最短で公表
3	予備登校で、「入試結果の開示」を求めたところ、「今日は忙しいので応じられない」と断られた。	高校に説明し、協力を依頼
4	配慮申請の提出時期を2月上旬までにして欲しい。	柔軟に対応
5	公立入試説明会は今後も動画配信でお願いしたい。 【2件】	音声の録音で対応を
6	追試験の実際の実施した状況について、情報（受験者数、合格者数、試験問題等）は公開して欲しい。	前年度の情報を提供
7	出願時の生徒氏名は、パソコンで表示できる範囲の漢字にして欲しい。	指導要録どおりの記載で依頼
8	昨年度から保護者氏名にふりがなを書くようになったが、狭いので、スペースを広くして欲しい。	今年度対応済

#### 2 今後検討すべき内容 9 件

	記載内容
1	日程の検討【3件】 ○私立一般の発表から公立出願までの期間が短い。 ○私立高校の合格発表から、第一次募集出願締切までの間隔に余裕がない。 ○土日をまたいだ入試日程は避けて欲しい。
2	「求める生徒像」の記載【3件】 ○もっと具体的で、受験生や保護者にも伝わるようにして欲しい。 ○中学生として意識すべき具体的な行動目標を示して欲しい。 ○定員を大幅に下回る高校も多い反面、受験生や保護者にとって違いがわかり、魅力づくりに様々努力している私立高校への入学が増加している。入試制度を含めた公立高校そのものの意義を見つめ直す必要がある。
3	本人の合格が、特色選抜か、共通選抜か開示して欲しい。
4	定員割れの高校でも不合格になる場合がある。できるだけ定員を満たすべき。
5	特色選抜の対象範囲が定員の2倍というのは多すぎる。

3 今後情報収集が必要な内容

○Web出願の検討について 12件

[背景] 私立高校の出願がWeb出願に移行しており，中学校としては，願書を集約する手間がなく，書き方の指導もする必要がなく受験生の責任において出願できる。

[課題] 財政面やセキュリティ面での対応が難しい。

受験料・・・公立：私立＝2,200円：12,000円～14,000円

セキュリティ面・・・出願された情報の管理を誰が行うのか等も課題

4 要望として受け取るが，新しい入試制度実施の検証のため検討対象外の内容 5件

	記載内容
1	学校ごとの基準の中でなされた評定の数値は，全受験生に平等と言えるか。
2	高校からの合否等の返送用封筒の切手は結果によって重さが変わるので高校側に負担して欲しい。
3	生徒の受験のチャンスを増やすために，前期・後期入試を戻して欲しい。
4	公立高校の先生方が学校説明のために来校される機会が増え，対応する時間に苦慮している。
5	公立高校の定員割れの問題が学力向上に大きく影響している。高校の統廃合だけでなく、40人1クラスの定員の見直しも必要になってくると考える。

II 【高等学校】 総回答数 82 校中、評価及び感想等を除く有効記述 21 校が記載あり

1 入試事務関係で対応可能な内容 3 件

	記載内容	対応案
1	会場設営と問題受領対応が重複し負担。	要望として検討
2	二次募集問題の受領が負担。地区処理校で受領を。	要望として検討
3	新型コロナウイルス感染症に関する報告様式の煩雑。	要望として精査

2 今後検討すべき内容 14 件

	記載内容
1	共通選抜と特色選抜の扱い【3件】 ○志願者が少ない場合は特色選抜のみでの選考。 ○共通選抜及び特色選抜の採用は各高校に委ねる。 ○出願者が募集定員に満たない場合には、募集割合を出願者数で変動。
2	日程の検討【6件】 ○私立高校も含めた適正な定員と公立試験の日程の前倒しを検討。 ○第一次選抜を2月に実施し、合格発表は3月（初中旬）に実施を検討。 ○問題受領から採点日の日程については曜日を考慮した日程の設定へ ○採点業務が年々緻密になっているので余裕を持たせる日程に。 ○他県のように入試時期そのものを半月ほど早めた日程の検討を。 ○中学校側の状況を見据えて入試日程は慎重にすべき。
3	追試験等の実施【2件】 ○追試験や海外からの受験などを一箇所に集めての実施 ○追試験を近隣の地区で当番校を決めて複数校合同での実施
4	第2志望の選抜方法【2件】 ○第2志望の扱いを、「定員を満たさない場合」の限定を再考。 ○学校ごとに選択できるようにするか、選抜順序の後半の方法で行えるようにしていただきたい。
5	進学先を安定的に確保しようとする中学生のみならず、部活動を頑張りたい中学生にとっても、私立高校への進学が魅力的になっている。

3 今後情報収集が必要な内容

○マークシート方式の導入について 3 件

【背景】採点ミス事案が多発した平成26年度入試以降、一部記述式を含むマークシート方式を導入した都県あり。採点基準の統一には有効。

【課題】財政面や問題作成等の対応が必要。



4 要望として受け取るが、新しい入試制度実施の検証のため検討対象外の内容 4件

	記載内容
1	実業・防災・芸術・体育科においては、旧推薦入試（1月実施）を導入。
2	第2次募集学力検査は、第1次募集学力検査結果を活用。
3	入試時期をもっと早い時期に、せめて特色入試は1月にすべき。
4	第一次募集のみの実施にするか、前期募集と後期募集（一次募集）の2回に分けて実施するかを各高校が選択できる制度へ。